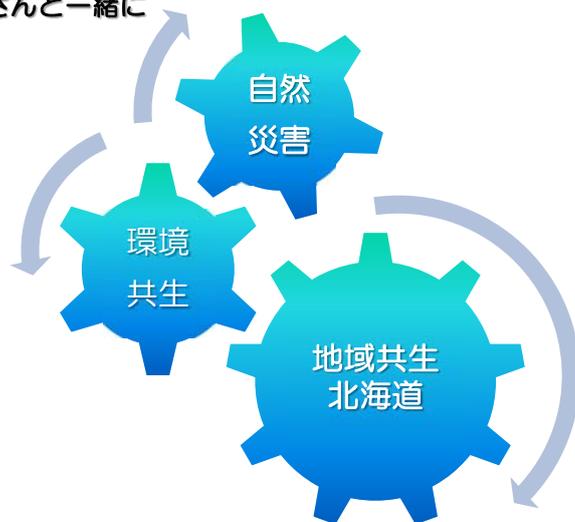


テーマ: 地域の自然災害と環境共生

人口減少・高齢化という「社会の津波」が静かに進行する21世紀の日本において、自然災害に対してうまく適応できる社会に移行するための戦略が今必要である。その戦略の一つとして、自然環境との共生を実現させ、これまでとは異質な社会基盤システムの選択することが迫られている。

自然災害、環境共生、エネルギー政策などの実例を紹介しながら、これからの地域の自然災害対策における環境共生の意義について、みなさんと一緒に考えていきます。



日時 **2012**年**5**月**27**日(日)
14:00~17:00

場所 北海道大学工学部
(札幌市北区北13条西8丁目)
2F アカデミックラウンジ1

- 基調講演 林 良嗣 (名古屋大学)
- 討論者 森田 康志 (北海道開発局)
加賀屋 誠一 (室蘭工業大学)
盛岡 通 (関西大学)
敷田 麻実 (北海道大学)
萩原 亨 (北海道大学、司会)

- 定員 約100名 参加無料
- 当日、直接会場にお越しください。

本シンポジウムは土木学会認定プログラムです。



(主催) 日本環境共生学会 (共催) 公益社団法人 土木学会
(後援) 札幌国際プラザコンベンションビューロー



自然災害は、それへの備えによっては人命・財産に甚大な被害をもたらす。自然といかにして付き合うか？ それは環境共生の根源的なテーマである。今年度の地域シンポジウムでは、東日本大震災の教訓に鑑み、地域固有の起こりうる自然災害と共生していく方法を討議する。そして、環境共生に向けて、自然に柔軟に対応するレジリエントな国土と社会の形成のあり方を探る。

1. 基調講演

14:00 - 14:50

林 良嗣（名古屋大学）人口減少・高齢化という「社会の津波」が静かに進行する21世紀の日本において、自然災害に対してうまく適応できる社会に移行するための戦略が今必要である。その戦略の一つとして、自然環境との共生を実現させ、これまでとは異質な社会基盤システムの選択を提案する。

2. 総合討論

15:00 - 17:00

司会 萩原 亨（北海道大学）自然災害は、それへの備えによっては人命・財産に甚大な被害をもたらす。自然といかにして付き合うか？ それは環境共生の根源的なテーマである。今年度の地域シンポジウムでは、東日本大震災の教訓に鑑み、地域固有の起こりうる自然災害と共生していく方法を討議する。そして、環境共生に向けて、自然に柔軟に対応するレジリエントな国土と社会の形成のあり方を探る。

森田 康志（北海道開発局）

15:10-15:25

土木学会タスクフォースの議論をベースとして北海道の災害の特徴を示し、北海道における安全な国土を形成する取組とそれを実現する将来の取り組みのあり方を解説する。

加賀屋 誠一（室蘭工業大学）

15:25-15:40

北海道は自然共生型持続可能社会モデルを構築するための有利な条件を兼ね備えている。環境との共生を進めることから高い生活質が得られ、満足度の高い社会を実現できるなど新しい資源を北海道にもたらす可能性を秘めている。これらの具体的な地域における取り組みについて紹介し、環境との共生が新しい社会展望となることを解説する。

盛岡 通（関西大学）

15:40-15:55

エネルギー政策から見たレジリエントな国土と社会システムのデザイン（環境モデル都市の形成）について解説する。具体的には、エネルギー消費を低くすることは、我慢というようなマイナス面は少なく、これまでに経験したことのない新しい未来を切り開く可能性について紹介する。

敷田 麻実（北海道大学）

15:55-16:10

災害をもたらす自然環境は、一方で地域にとっては資源でもあり、wise useやsmart useが求められる。そこで、変化する資源と地域社会をどうマッチングさせるか、地域の範囲をどう設定するか、が今後の課題となること、さらに地域資源を変換して利用するだけでなく、資源状態にあわせた社会システムの再構築も考えられることを示唆する。

（問い合わせ先）

日本環境共生学会本部事務局 TEL: 090-7918-9179

jahes@urban.env.nagoya-u.ac.jp

北海道大学大学院工学研究院北方圏環境政策工学部門

TEL: 011-706-6214 hagiwara@eng.hokudai.ac.jp

